

令和4年度フレイル予防事業 実施状況報告

	取組事業	目的	対象者 R4.12月現在	事業内容	R3実績		
					対象者数	参加人数等	結果
ハイリスクアプローチ (健診結果より重症化予防対象者への訪問)	低栄養状態の疑いのある者への訪問	低栄養状態の疑いのある者に対し、訪問による個別指導を実施し、生活習慣を見直すことで、低栄養の改善を図る。	BMI 20 未満かつ前年度健診時より2 kg以上体重減少があった者。 対象者:28人	訪問(または電話)し、生活状況や健康状態を把握した上で、栄養指導を行い、また必要に応じて医療やサービスにつなぐ。	31人	指導実施者 27人 未実施 4人 内訳 拒否等 1人 入院入所 4人	継続訪問指導実施状況 継続訪問実施者 20人 指導結果 生活改善ができた 14人 変化なし 5人 悪化 1人 ・食事内容の見直し(減塩・野菜やたんぱく質の摂取量の確認)が多い。
	生活習慣病ハイリスク者訪問	血圧および糖尿病コントロール不良者への保健指導を行うことにより、脳血管疾患の原因となる生活習慣病の重症化、要介護状態を予防する。	健診受診者のうち、いずれかに該当する者。 ・血圧160/100mmHg以上で未治療の者 ・HbA1c7.0%以上で未治療の者 対象者:21人 内訳 血圧 18人 HbA1c 2人	訪問(または電話)し、病気の受療・服薬状況、生活状況や健康状態を確認し、必要な保健・栄養指導を行う。必要時医療連携を行う。	64人	指導実施者 56人 未実施 8人 内訳 拒否等 7人 入院入所 1人	継続保健指導実施状況 継続指導実施者 19人 指導結果 生活改善ができた 9人 変化なし 10人 ・血圧については定期受診しており、家庭内血圧が良好な人が多かった。 ・がん検診の精密検査未受診者への受診指導や薬局との連携をしたケースもあった。
ポピュレーションアプローチ (集団へのフレイル予防の啓発事業)	フレイル予防事業	参加者が自らの生活習慣を振り返り、フレイル予防の必要性に気づき、そのための具体的な方法について理解を深めることで、生活習慣の改善につなげる。 また、健診や医療機関の受診状況、生活状況等を確認し、必要な医療や介護サービス等に結びつける。	・通いの場や高齢者が集う場等に参加する65歳以上の高齢者 実施回数 28会場 延50回 延参加者数 547人	・医療専門職が会場へ出向き、フレイルチェック、体力測定、咀嚼力チェックを実施し、フレイルリスクを確認する。 ・フレイル予防と生活習慣病の重症化予防の健康教育を実施する。 ・関心・満足度アンケートの実施	フレイル予防教室 18回	参加延べ人数 288人	アンケート結果 ・教室内容に満足 63% ・よく理解できた 49% ・今後取り組みたいこと 足指運動 44% 片足体操 26% 口腔ケア 16% ・フレイル予防の重要性が理解できた、簡単に取り組める体操を継続したい、もっと早くに知りたかった等の感想が聞かれた。 ・今後の取組で「健診」を挙げる人は少なく、医療の重要性についても理解を深めてもらう必要がある。
人材育成	フレイル予防人材育成	地域において高齢者を支援する人材にフレイル予防の知識やスキルを学んでもらい、地域のフレイル予防の担い手として育成する。	地区運動指導員 食生活改善推進員 看護師等 参加者数 計35人	・研修会 「フレイル予防で健康長寿へ～体をつくる大事な食事～」 新潟県栄養士会 栄養ケアステーション 管理栄養士 藤田恵美子	食推研修会に併せて実施 3回	食生活改善推進員 21人	「フレイル」についての基本的な内容についての講義を実施。高齢者への食推事業等で活動する際の基礎知識として理解を図った。